



研究部だより

No.2 令和5年10月発行

研究主題

生涯にわたる豊かな学びを目指した授業づくり
～児童生徒の夢や願いを基点とした

「わかはとシステム」の構築～

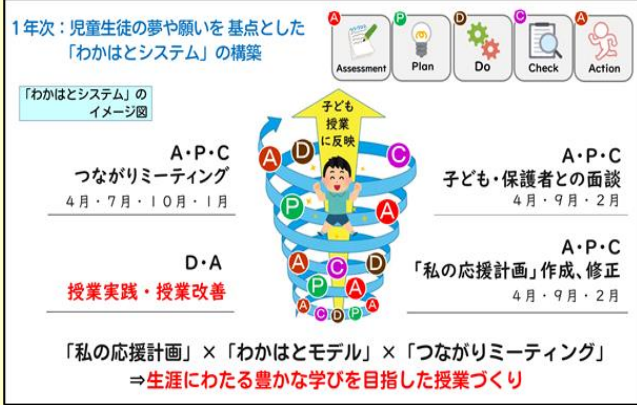
全校授業研究会 高等部

高等部 Dスタディ（生活単元学習） 雪グループ

楽しむぞ！挑戦するぞ！～調べて調理をしよう～

<「わかはとシステム」による授業づくり>

高等部Dスタディ(生活単元学習)雪グループでは「わかはとシステム」に基づいた授業づくりを行い、7月20日に全校授業研究会を開きました。“生徒の夢や願い”を基点に、どのような資質・能力を育めばよいのか、そのために、本単元で目指すねらいをどう設定するのか、そして、「生涯学習力」の高まりをどう見取るのか。今回の研究部だよりでは、授業づくりの過程や全校授業研究会でいただいた御意見・御助言をお伝えします。



○生徒との面談、保護者との面談による、“夢や願い”の聞き取り・見取り



- ・料理をしたい ・バスで出掛けたい
- ・料理の仕事をしたい …etc



- ・思いを伝えられるように ・友達との関わり
- ・身辺自立(健康の保持) …etc



生徒が夢や願いを叶えるために
どのような力が必要？



教師が子どもに願う姿

わかはとモデルの視点

私の応援計画		児童生徒 (名前)	保護者 (名前)
学年	生年月日		
保護者の生活・子供の生活に関する願い		保護者の願い	
【子供】異動学習や調理を頑張りたい。作業で作りたい。		【保護者】本人の成長が少ない中でも、自分自身で活動できるようにしてほしい。	
【先生】習字や、お手紙(感謝状書き、アールブルック)を頑張りたい。		【先生】やるべきが、言葉遣いなどを含めた相手への好ましい関わり方を身につけてほしい。	
【授業】異動学習でマップを作りたい。		【先生】個人での関わりや、同年代の友達との交流が増えしてほしい。	
私の目標			

○「私の応援計画」の作成

「生涯学習力」の広がりや深まりのモデル			
人とながる	なかまといっしょに	人とつながりをもっと広げようとしている	人とつながりを広げよう・深めようとしている
情報を集める	見てみよう・聞いてみようとしている	見て聞いて調べようとしている	経験を生かそうとしている
試す	やってみようとしている	考えて試してみようとしている	挑戦し続けようとしている
自分を知る	好きなことを知ろうとしている	いろいろな自分を知ろうとしている	なりたいた自分を知ろうとしている

「生涯学習力」を広げたり深めたりするための基盤【好奇心】【興味・関心】【夢中】



「楽しむぞ！挑戦するぞ！～ウィッシュリストを作ろう！～」

単元の学習計画を立てるために、みんなでやりたいことをウィッシュリストにする。



「楽しむぞ！挑戦するぞ！～みんなでプリン作りに挑戦！～」

30分以内でできるプリンの作り方を調べて、よりよい方法を選んで作ったり、改善点を考えたりする。



経験したことがないことに対しての興味・関心をもちにくい。

つながりミーティング

「やってみたい」と思うことに挑戦し、工夫や改善によって自分の思いが実現する経験を積み重ねることが必要！



「楽しむぞ！挑戦するぞ！～グループでおかず作りに挑戦！～」

おかずの作り方を調べて、よりよい方法を選んで作ったり、専門家のアドバイスを参考にして改善点を考えたりする。

自信をもって調理をしたり計画を考えたりするためのしかけ



【ペアやグループでの活動】

・お互いの様子が見えるため、友達を参考にしながら活動に取り組んだ。

【専門家からの指導】

・秋田大学准教授の堀江さおり先生に調理のポイントを教わった。

【アドバイスを表で提示】

・アドバイスいただいたことを基に、自分のレシピの改善点を考えた。

Point

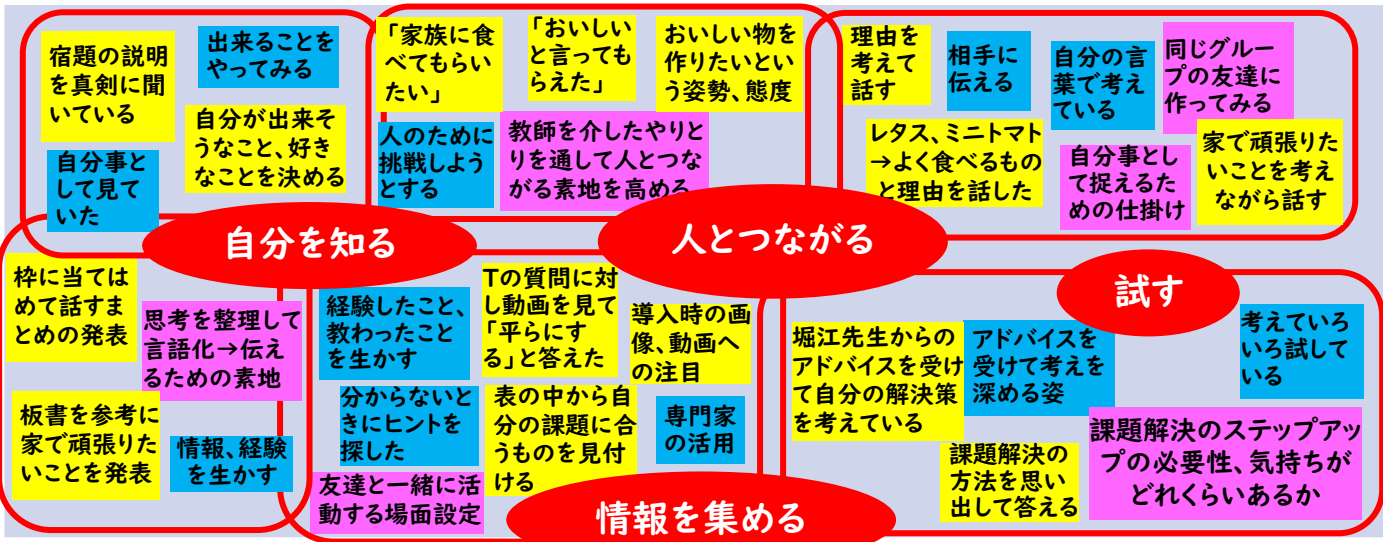
研究会 協議から

協議題「生徒の姿から学びを見取る～わかはとモデルの分析と改善のために～」

生徒の姿

関連するわかはとモデルの要素や手立て

改善点



【協議で話題になったこと、改善点】

- ・家族においしいと言われたい、家族に食べてもらいたいという気持ちの共有。家で取り組んだことを全体の場で紹介する。→「家族に喜んでほしい」という目的意識があることで、学習に対する意欲が高まる。
- ・経験したことを思い出しながら、自分の課題に合う情報を集めていた。→アドバイス表を自分たちで操作し、考えを深める方法もあったのでは。
- ・友達の発表を真剣に聞いている一方、「自分の課題」を書き終えたら再びタブレットを見ている生徒も…→自分事として捉えられるように、友達の意見も自分に生きるという気付きがあればいい。

研究協力者の先生から

<秋田大学大学院教授 藤井慶博先生>

- ・課題と聞くと、マイナスなイメージ、高い目標を設定しがちだが、子どもの得意なところからスタートしてよかった。指導案にウェルビーイング、今ある力、今もつ物を生かすことが反映されていた。
- ・計画→実行→課題解決の流れ。視覚的な表が準備されており、めあてとリンクしていた。
- ・グループごとに話す座席配置だったが、今回の授業で人とつながる機会は少なかった。本時は少なくともよかったと思う。どこの単元で人とつながる活動を多くするか計画することが大切。
- ・家で頑張ることに対する問いが弱かったように感じる。子どもたちの答えも「家族に食べさせる」「家で頑張る」など、家での取組の目標設定までは至らなかった。

<中央教育事務所 指導主事 高橋基裕先生>

- ・子どもたちの学びに向かう姿勢がとてもよかった。以前担任していた生徒が、自分から発表した姿に驚いた。
- ・「どのような方法で課題を解決するか」という提示。子どもたちにとって「課題」という言葉は難しかったかもしれない。子どもに合わせた言葉で提示できるとよい。
- ・ペアでの学びから集団での学びへと展開するのがよくある流れ。今回は集団からペア、そして個へと展開しており、生涯学習の授業として提案できる新しい単元構成だったのではないか。
- ・「私の応援計画」の面談では、子どもの発言を受容する姿勢を大切にしてほしい。子どもの夢を大事に。なりたい自分になるために何を頑張ればいいのか。面談の様子をビデオ撮影し、学び会う機会をもつのもよい。
- ・今年度新しい取組として、わかはとモデルの視点を「私の応援計画」に盛り込んでいる。わかはとモデルの視点ありきにならないように、意味付けるのは面談が終わった後がいいのではないか。

Next→全校授業研究会(中学部)についてお伝えします。